

「カーブスジャパン」(東京 期待している」と述べた。
都港区)と健康増進に関する (橋本浩佑)

いきいき働く職場に

吉川の建設コンサル「ホウユウ」

6月にユースエール認定

建設コンサルタント業を営む吉川市の「ホウユウ」は、今年6月に厚生労働省のユースエール認定を受けた。若者の採用・育成に積極的で、雇用管理状況などが優良な中小企業を認定する同制度だが、残業時間の上限などからハードルの高さを感じる企業も多い。長時間労働のイメージが強い建設業でありながら「残業は、ほぼない」という太田久年代表取締役は「人がいきいきと働く職場環境が大切」と強調する。

同社は道路や公園などの社会インフラ整備の際に、調査や設計といった業務で発注者を支援する建設コンサルタント業。社会基盤整備を担う重要な仕事ではあるが、長時間労働が課題になっていた。太田社長は「この業界の働き方改革は無理だろうと思った」と入社当時を振り返り

つつ「先輩が帰らないから残っているなど、無駄な時間も多かった」と、改善する意識が足りなかった点も指摘する。

同社が変わり始めたのは東日本大震災以降。若手の採用に取り組み際、働きやすい環境が必要と考え、テレワークの導入や書類のクラウド管理に加え、現場作業も含めたデジタルトランスフォーメーション(DX)化に着手してきた。「入社当時は終電始発で通勤する状況も見られた」という加州愛美さんも「導入に時間を費やしたが成果に変わった」と話す。

こうした改善の積み重ねに加え、業務効率化や納期に対する発注者側の理解も追い風に。コロナ禍以降はほとんど残業がなく、今回のユースエール認定は条件が整った上で申請できた。

(CM)の間寛平さんが27日、県庁で大野元裕知事を表敬訪問した。

太田久年社長(右)と認定証を持つ加州愛美さん(吉川市)



太田社長は、経営理念に掲げている「人を生かす」ことの大切さに言及。「技術系の会社ではあるが、まずは人が大事」としつつ、大手企業に人材が流れがちな昨今の潮流に触れ「初任給賃上げにはかなわないが、働く環境や、福利厚生の整備は中小企業でもできる」と力を込める。

現在は育休取得実績も出ており、働く環境はさらに充実しようとしている。太田社長は「きついイメージがある業界そのものが、今は変化していると広まれば」と先を見据えている。

埼玉労働局によると今年8月15日現在、県内のユースエール認定企業は29社ある。(倉田祐介)

ん寛 って るく し、 若手 がな るよ りま しん 公 演 開演 前売 千円 人の 種、 9月 24年 全施設 算案(47議 会期 一般質 9月 川口駅 を盛り 会計補 468 632 案され 会期 間。一 4日間